2023（令和 5）年度　文学部比較文化学科　学校推薦型選抜（一般）　講評

【出題の意図】

今年度は、課題文は１つで、Tara Haelle/三枝小夜子訳「個人の自由か公共の利益か　米、学校でのマスク論争激化」（『ナショナル　ジオグラフィック日本版サイト』2021 年 9 月 1 日）を出題した。コロナ禍が収束しない中、各国ごとに公共の利益を理由としてどの程度個人の自由が制限されるのか議論が戦わされている。そのなかでアメリカの事情を取り上げた。今回は論述に際して踏まえる具体的な事例をコロナ禍問題に限定しないでよいとして解答しやすくした。長い文章を選び１つの課題文の出題に止めた。

【評価のポイント】

問一では、アメリカにおけるマスク論争の経緯と特徴の要約を求めている。経緯は、共和党知事のマスク着用禁止令とそれへの反発であり、特徴は自由と公共の利益が共和党と民主党との政治的対立の争点になっていることである。共和党は個人の自由を重視し、民主党は公共の利益を重視している。しかし共和党知事の州内でのマスクを着用しないようにという圧力に対しては、民主党はマスク着用義務化を重視しつつも、個人はマスクを着用する自由があるという主張もしている。そのため民主党もあくまで個人の自由と選択の権利を重視しつつ、相対的に公共の利益も時には重視するということである。この点で共和党＝個人の自由、民主党＝公共の利益と安易に断定することはできない。こういった細部までの目配りを求めた。

問二では個人の自由と公共の利益をめぐる問題について具体的事例をあげながら考えを展開できているかがポイントである。本文に即してコロナ禍の事例で回答する場合は、マスク着用禁止の圧力があるなかでマスクを着用する自由にも着目した解答などを期待した。

今回は、具体的事例はコロナ禍に限らないと明記して出題したが、コロナ禍以外では身のまわりのささいな事よりも社会性のある事例をあげることを期待した。その際に具体的に言及することが望ましく、一般論で終始する答案は高い評価をつけることができない。事例としては、ヘイトスピーチをする自由と禁止を求める声、プラスチックなどを廃棄することに対して環境のため禁止すべきという主張、積極的差別是正策での大学での特定人種への入試優遇制度の是非、ジェンダー平等指数と関連して掲げられる国会議員、会社幹部などでの女性枠などから、テロリズム犯罪者への拷問が許されるか否か、エイズが蔓延するなかでカトリック教会が避妊具着用を禁止したことの是非などを予測した。身近な事例としては校則での服装制限、携帯禁止などであるが、このような身近な事例を取りあげること自体は問題ないが、社会的な考察にまで広がらない解答はあまり望ましくない。

【解答の傾向】

問一について、アメリカにおけるマスク論争の経緯と特徴の要約を求めた。共和党知事のマスク着用禁止令とそれへの民主党支持者の反発が経緯であるため、ここで共和党と民主党との政治的対立に少し触れるが、それが特徴であると自覚した解答は少なかった。個人の自由と公共の利益との対立については触れるがそれぞれの具体的な意味内容を理解していない解答が多かった。民主党はここでは公共の利益を求めているが、根底においては個人の自由と選択の権利を重視していることに触れた答案はほぼなかった。

問二については、マスクの着用について述べた答案が目立ち、また公共の利益か個人の自由かの二者択一で論じるものが多かった。取り上げる事例はコロナを扱うものが多かった。ただコロナ以外の事例も少なくはなかった。ウクライナ戦争に関連した事柄が多く、日本国内でのロシア人への差別などが取り上げられていた。予測したとおりヘイトスピーチ、環境問題を取り上げる答案が一定数あった。さらに学校の制服規制、クラブ活動や女性専用車両をとりあげたものがあったが、議論をうまく展開できていた。事例として身のまわりのことを扱うことは問題ないが、社会的な考察にまで広がらない解答が多かった。ハローウィン、監視カメラ、コンサートでの声出しなどを取り上げた答案があった。

自由と公共の利益のどちらを優先するかについて、ディベート的に立場を明記した上で議論を

展開するかたちの論述が多かった。それ自体は問題ないが、自らが掲げる立場ではない側に対する考慮に欠ける論述も多く、それが論理の破綻につながっているものも少なくなかった。

ごくわずかではあるが、「自由か公共の利益か」という二項対立的な理解そのものを疑問視する論述や、こうした選択を個人に強いる「自己責任」社会のあり方について考察する論述が見られ、多角的かつ厚みのある論理展開を目指す解答があったが、これは大変高く評価できた。

受験生にとって、「自由」は当たり前のものとして与えられていることが前提になっていると見受けられ、「自由」を、「勝ち取る」もの・こと、「つかみとる」もの・こと、として語る答案がまったくなかったことが印象的であった。

常日ごろから紙媒体の新聞記事などを読む習慣をつけ、与えられた情報を吟味できるようになることが求められる。原稿用紙の使い方や段落の分け方はおおむね問題はなかった。誤字脱字は減点対象であるが、全体的には少なかった。中学、高校で学ぶ地歴・公民、現代社会などを学習するとともに、ニュースに関心を払って学んでいってほしい。